

第2次千葉市文化芸術振興計画 1次評価シート

基本施策名	基本施策2_文化を創造する人材を「育てる」			
	(1)文化芸術活動を楽しむ市民への支援			
事業名	舞台芸術創造ワークショップ「子どもダンスワークショップ」／ 舞台芸術創造ワークショップ 公演「よしもとダンスエンターテインメント CHIBA SPECIAL LIVE2020」			
実施主体	指定管理者	(名称) 公益財団法人千葉市文化振興財団		
市との関わり	その他	企画提案事業	指定管理者	
市担当課	市民局生活文化スポーツ部文化振興課		(連絡先)	245-5961 (内)90-2526

事業概要	開始年度	令和元年度		
	事業費	(予算) 市：0 その他：3,450	(決算) 市：0 その他：2,919	
	内 容	ワークショップは、学年別に応じたコースを2つ設け、全5回開催。受講生の目的意識を高め舞台芸術を身近に体感できるよう、講師と同じステージに立つ成果発表を行う。		
	目 的	小学生～高校生を対象に多岐にわたる文化芸術で一つのジャンルにスポットを当て、第一線で活躍しているアーティストを講師に招き、ワークショップを開催。アーティストとの交流を含め文化芸術を身近に体感してもらい将来の文化芸術を担うきっかけ作りを提供する。		
	目 標	(数値) 受講10名 入場者121名	(昨年度) 受講39名 入場者262名	
	ねらい	(対象) 小学4～6年生／中高生 (求める効果) 参加者のダンスの能力向上を図りつつ、自己表現やコミュニケーションについて学ぶ。また、ダンスに親しむ子どもたちを応援することで、文化芸術に親しむ市民の裾野を広げる。 (アプローチ方法) プロダンサーを招き、その指導のもと、全5回のワークショップで一つのダンスを完成させる。また、その成果を文化センターアートホールにて、発表してもらう。		
	実績	令和2年8月3日～8月17日 「子どもダンスワークショップ」参加者募集 (応募数 小学生9名、中高生12名) 9月13日 第1回ワークショップ 参加数10名(小学生5名、中・高生5名) 9月20日 第2回ワークショップ 参加数10名(小学生5名、中・高生5名) 9月21日 第3回ワークショップ 参加数10名(小学生5名、中・高生5名) 9月22日 第4回ワークショップ 参加数10名(小学生5名、中・高生5名) 9月27日 第5回ワークショップ 参加数10名(小学生5名、中・高生5名) 10月10日 発表公演「よしもとダンスエンターテインメント CHIBA SPECIAL LIVE2020」 {参加受講者10名(小学生5名、中・高生5名)・入場者107名※定員121名}		
	情報発信	■ 市政だより ■ H P ■ ポスター・チラシ ■ フェイスブック・ツイッター ■ その他（ ）		

【評価指標】 4：妥当、3：ほぼ妥当、2：工夫により改善、1：見直し

1 基本 施策 との 適合	(1) 妥 当 性	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) 市内の小中高校生がワークショップに参加し、その成果をステージで発表する事業形態は、交流や発表の機会を増やしており、基本施策2(1)文化芸術活動を楽しむ市民への支援に合致し、妥当。
	(2) 達 成 度	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) 定員を上回る応募者があり、受講者の出席率は100%であった。また、アンケート回答からも、「満足」90%「やや満足」10%となっており、参加者の満足度も高かったことがうかがえる。コロナ禍での実施となったため、定員を5名に絞り込んだが、これについてはソーシャルディスタンス等の観点からいたしかたなかった。
	(3) 波 及		(評価の内容) ワークショップの発表の場として、舞台芸術創造ワークショップ 公演「よしもとダンスエンターテインメント CHIBA SPECIAL LIVE2020」に出演してもらった。 【基本施策1(2)参加・体験活動の推進への波及】、【基本施策5(1)魅力ある資源の活用への波及】
2 戦 略 的 な 視 点 ・ 基 本 姿 勢 と の 適 合	(1) 市 民 主 体	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) 参加した子どもたちがソロパートを各自考えるなど、参加者全員が一緒になって舞台を創り上げることで、市民主体の文化芸術活動の活性化に寄与できた。
	(2) こ ど も ・ 若 者	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) こども・若者が主体となる事業であり、ワークショップの講師とともに練り上げた発表や、ワークショップとリンクした本番公演における他の出演者たちとの交流を通じて、創造性を育むことができた。
	(3) 領 域 の 広 がり	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) ・子どもたちがひとつのダンス表現を創り上げていく中で、お互いの価値観に触れ協調する機会を創出できた。 ・市内の学校の枠を超えた子どもたちの交流の機会を創出できた。

3 事業のねらい	(1) 妥当性	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) 小学4～6年生と中高生の2コースを、各5名の定員で実施した。本来ならば、より多くの参加者数を設定したいところであったが、コロナ禍のもと、ソーシャルディスタンス等を鑑みると、これが限界であった。コロナ禍という条件の下であれば、基本施策2(1)文化芸術活動を楽しむ市民への支援に合致すると思われる。
		(評価に関連する数値等)	
	(2) アブローチ	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) 講師とのワークショップを通じ、レベルの高いダンスを完成させ、発表までつなげられたことは、評価できていると感じている。また、アンケート結果から、参加者が満足感をえてワークショップを終えたことがうかがえる。
		(評価に関連する数値等) アンケート回答結果： ・参加されたきっかけは？「ダンスが好きだから」「去年も参加して楽しかったから」「楽しくスキルアップできるから」 ・内容はいかがですか？ 「満足」90% 「やや満足」10%	
4 市民との関わり	(1) 満足度	☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☒ 4	(評価の理由) 講師が曲を選定し、その曲を冒頭から流しながら、参加者の様子をうかがいつ振り付けをしていった。レベルの高く感じられる振り付けはシンプルに、逆に簡単に踊れる部分は高度な振り付けをほどこすなどの硬軟織り交ぜた講師の指導に、参加者は満足したようだった。アンケートによると、ほぼ、全員が内容に満足してくれた。
		(評価に関連する数値等) アンケート回答結果： ・内容はいかがですか？ 「満足」90% 「やや満足」10%	
	(2) 周知度	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) コロナ禍での実施であったため、ソーシャルディスタンス等を勘案し、参加者数を各コース5名にしばった。広報については、前年度受講者へのDM、市内公共施設のチラシ・ポスター配布、ホームページの掲載を行った結果、小学生9名、中高生12名の応募があった。
		(評価に関連する数値等)	
5 効果	(1) 活動の活性化	☐ 1 ☐ 2 ☒ 3 ☐ 4	(評価の理由) ダンスに興味のある子どもたちに向けて、講師がワークショップを通じてプロのスキルを伝えられたのは、人材育成の活性化につながったといえる。また、一つのステージを一緒に創り上げていくという過程で、参加者同士の協働・連携の促進が図られた。
		(評価に関連する数値等)	
	(2) 費用対効果	☐ 1 ☒ 2 ☐ 3 ☐ 4	(評価の理由) 今回、コロナ禍での開催となったため、ワークショップ、本番公演ともに、定員をおさえた形となった。ワークショップについては、定員を超える応募者があったが、本番公演は、88.4%の入場率であった。コロナ禍という特殊事情もあり、費用面では効果的な事業展開ができたとは言いがたいところもあるが、アンケート結果から参加者の満足度の高さはうかがえ、その点では効果が高かったといえる。
		(評価に関連する数値等)	
	(3) その他の効果		(評価の内容) ※上記(1)(2)以外の効果があった場合のみ記載(地域活性化等なんでも可)
			(評価に関連する数値等)